工藝

『民藝運動』一〇〇周年記念企画！

電子書籍版

柳宗悦らが遺した貴重な文化遺産、
我が国唯一の工藝美学研究雑誌『工藝』をデジタル化し、
全文検索機能を付してオールカラーで再現！

◉監修・解説＝水尾比呂志（元・日本民藝協会会長）

不二出版

取扱店

丸善雄松堂 株式会社 学術ソリューション事業部 Maruzen eBook Library 担当
TEL:03-6367-6080　FAX:03-6367-6188　ebook-i@maruzen.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川1-28-23 東京ダイヤビルディング5号館10階

株式会社 紀伊國屋書店 デジタル情報営業部 Kinoden 担当
TEL:03-6910-0518　FAX:03-6420-1359
〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10 ict_ebook@kinokuniya.co.jp

『工藝』電子書籍版概要

◉発行所＝聚楽社／日本民藝協会／靖文社／日本民藝協会「工藝」編集室／日本民藝協会
◉収録内容＝第1号（昭和6年1月）～第120号（昭和26年1月）
◉原本提供＝日本民藝協会／日本民藝館
◉解　説＝水尾比呂志（元・日本民藝協会会長）
◉推　薦＝鶴見俊輔（哲学者・故人）
◉発　売＝2026年7月一括刊行
ISBN978-4-8350-5990-7

★本書は電子書籍です。
Maruzen eBook Library ／ KinoDen のサービスでご購入になれます。

定価：
- 同時1アクセス　本体 **380,000** 円＋税
- 同時3アクセス　本体 **517,000** 円＋税

近刊のご案内

日本民藝協会発行（昭和14年－昭和22年刊）

月刊民藝・民藝
電子書籍版

◉解説＝水尾比呂志・尾久彰三・杉山享司・村上豊隆・白土慎太郎
◉総4、930頁
◉定価
同時1アクセス　予価250、000円＋税
同時3アクセス　予価375、000円＋税
◉2026年度刊行予定！
◉推薦＝大城立裕・鶴見俊輔・水尾比呂志

『月刊民藝』は、日本民藝協会の機関誌として、昭和一四（一九三九）年四月に創刊、同一七年一月から『民藝』と改称されて同二二（一九四六）年七月発行の第七〇号まで刊行された。ただし、第六九号は不詳である。本資料によって、世界の生活文化史上希有な事跡と考えられるべき民藝運動の、戦時下の実情を知る場を拡げるとともに、それを現在の生活文化に照応させて在り様在り方を検証するよすがともなる得るだろう。

● 表示価格はすべて税別。

不二出版
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL　03-5981-6704
FAX　03-5981-6705
振替　00160-2-94084

2026/07

◉推薦の辞

このひとすじの道

鶴見俊輔〈哲学者・故人〉

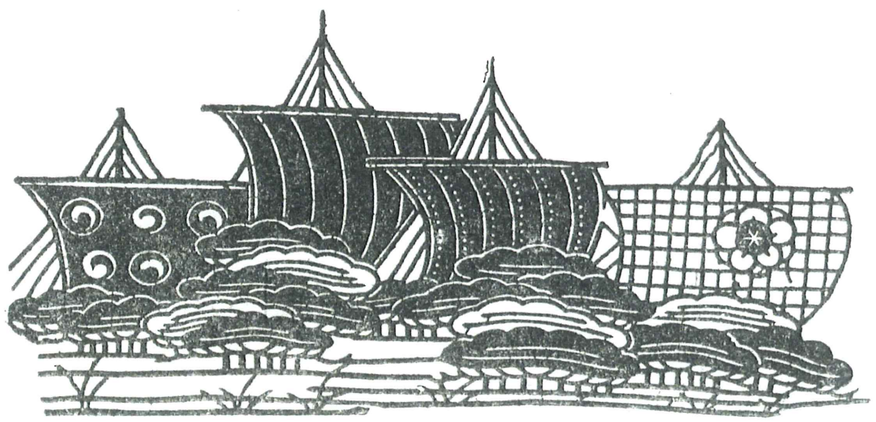
明治元年に、近代日本ははじまる。政府としてはそうだが、日本の文化としては、そうではない。明治元年以前の、とくに手仕事についての伝統に柳宗悦は、眼をひらかれた。そのことが民芸運動のはじまりだった。

雑誌『工藝』は昭和六年にはじまり、『月刊民藝』は昭和十四年にはじまる。両年はそれぞれ、満洲事変（昭和六年）、日中事変（昭和十三年）に踵を接して発足しており、その時代の日本国内部の動きとの交渉の下に発行されて大東亜戦争終戦に至る。この長い戦争に対する柳の態度は『ブレークとホイットマン』のような小部数発行の雑誌の編集後記に明らかであり、大部数発行の『月刊民藝』においては、読み手によって多様に読める。しかし、明治以前からの手仕事を守るという態度で一貫している。

すぐれた手仕事への敬意。そのつくりだした器を心をこめて使う。ぞんざいな生き方をさける。これらのことについての一貫性が民芸運動を支える理想としてつづいた。

それは、敗戦後の日本社会に対して、対立する理想である。

日本の知識人は、明治はじめに欧米の知識をとりいれて以来、〇〇はもう古いと言いつづけてきて、学習をくりかえしては、卒業することを習慣としてきた。その習慣は、米国に負けてその影響下におかれて以来、さらに深まった。柳宗悦と彼に啓発された民芸運動は、日本の知識人の運動としてはめずらしく、何々は古いと言ってくりかえし卒業する風習から自由であり、戦後からさらに遠くはなれた今日の日本文化の中で独自の位置を保っている。



家紋と琉球型紙の小間絵（第19号より）

日本各地はもとより、アイヌ、琉球、朝鮮、台湾、中国からヨーロッパまで
『工藝』全二一〇号がとりあげた主題一覧

各号「主題」

◉第一年
第一号 石皿
第二号 民画
第三号 自在
第四号 看板
第五号 茶碗
第六号 丹波布
第七号 北九州の徳利
第八号 御厨子
第九号 陶器の文字
第一〇号 山陰の新作
第一一号 木工
第一二号 牛戸古陶磁

◉第二年
第一三号 李朝陶磁
第一四号 こぎん
第一五号 金工品
第一六号 土瓶
第一七号 絵馬
第一八号 布志名窯
第一九号 肥前染付猪口
第二〇号 絣
第二一号 木喰仏
第二二号 民窯
第二三号 朝鮮石器
第二四号 芹澤銈介型染

◉第三年
第二五号 スリップ・ウエア
第二六号 漆器
第二七号 茶碗
第二八号 石州雪州和紙
第二九号 リーチ
第三〇号 籠細工
第三一号 茶碗素描
第三二号 倉敷の新作
第三三号 肥前大鉢大皿
第三四号 船簞笥
第三五号 台所
第三六号 ダッチ・タイル

◉第四年
第三七号 赤絵
第三八号 外村吉之介・柳悦孝の織物
第三九号 民窯
第四〇号 朝鮮模様
第四一号 苗代川窯
第四二号 金工品
第四三号 高取窯
第四四号 書物工芸
第四五号 赤絵
第四六号 バーナード・リーチ素描
第四七号 日本の民芸
第四八号 瀬戸永滴

◉第五年
第四九号 琉球染織
第五〇号 琉球紅型紙
第五一号 朝鮮藁工品
第五二号 船木道忠の陶器、森永重治の織物
第五三号 河井寛次郎・富本憲吉・濱田庄司、芹澤の染物
第五四号 菓子型
第五五号 陶器
第五六号 朝鮮木工品
第五七号 楽浪彩篋
第五八号 硯
第五九号 武州紙
第六〇号 三国荘

◉第六年
第六一号 染物
第六二号 染付小品
第六三号 築島絵巻
第六四号 植物染料
第六五号 野州石屋根
第六六号 絵漆
第六七号 茶碗
第六八号 河井陶器
第六九号 朝鮮現代民芸品
第七〇号 日本民藝館
第七一号 棟方志功「華厳譜」
第七二号 行燈皿

◉第七年
第七三号 泥絵
第七四号 蓑
第七五号 古陶器
第七六号 芹澤「どんきほうて」
第七七号 濱田の茶碗
第七八号 文字
第七九号 琉球の拓
第八〇号 朝鮮の陶画
第八一号 柳（悦孝）の織物、棟方版画
第八二号 朝鮮現在民芸品
第八三号 古陶器
第八四号 ざぜち

◉第八年
第八五号 李朝陶器
第八六号 和時計
第八七号 色染和紙
第八八号 民間彫像
第八九号 古丹波
第九〇号 支那影戯
第九一号 米沢織物
第九二号 鳥取民芸
第九三号 宋胡録
第九四号 南方支那染付
第九五号 法然上人御影
第九六号 川上澄生版画

◉第九年
第九七号 黄八丈
第九八号 仏教版画
第九九号 琉球陶器
第一〇〇号 琉球風物
第一〇一号 棟方版画
第一〇二号 陸中漆器
第一〇三号 首里と那覇
第一〇四号 曽我屏風
第一〇五号 支那陶画
第一〇六号 アイヌ織物
第一〇七号 アイヌ木工品
第一〇八号 東北民芸

◉第一〇年
第一〇九号 中世基督教芸術
第一一〇号 日本民藝館
第一一一号 李朝染付化粧具
第一一二号 樺細工
第一一三号 琉球てさあじ
第一一四号 朝鮮紙
第一一五号 三代沢本壽染紙
第一一六号 芹澤染絵
第一一七号 絵絣
第一一八号 面
第一一九号 沖縄陶器
第一二〇号 大津絵